

## スマホを使って脳とカラダを 楽しく・お得に活性化

～ 65歳からの介護予防ポイント制度「てくポ」 6月より拡大・再始動 ～

6月1日から、スマートフォンアプリを使った介護予防ポイント制度「てくポ」の実証を再開します。

昨年度の成果を踏まえて、規模の拡大はもちろん、オンライン登録やお友達紹介ポイントなどの新たな取り組みにも挑戦しています。

限られた資源で15万人の高齢者を守るため、コストをかけずに拡大し続ける事業を目指します。

### 1. 「てくポ」事業の特徴

#### 運動・栄養・社会参加を楽しく応援

介護予防の三本柱である「運動・栄養・社会参加」を、健康無関心層も含めた多くの高齢者に、無理なく習慣化してもらうことが狙いです。

㈱ベスプラの無料アプリ「脳にいいアプリ」を活用し、日々の健康習慣やボランティア・イベントへの参加によって、地域で使えるポイントが貯まる仕組みをつくりました。

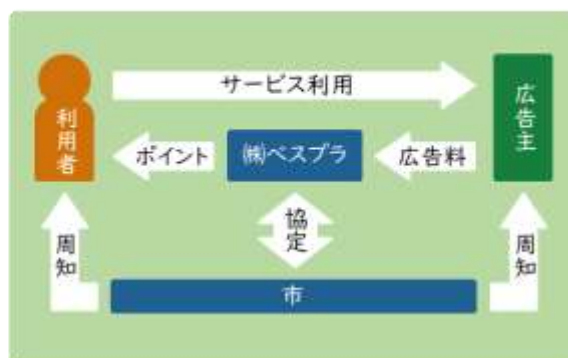


#### 利用者数とコスト・マンパワーが比例しない事業モデル

58万都市の宿命として、限られた人員・予算で多くの方にアプローチすることが常に求められます。

本事業では、ICT活用で人員を抑えることに加え、ポイントの原資を含む運営コストを、広告収入等で賄うことを目指しています。

コロナ禍を機に、ICTを活用した介護予防への関心が全国的に高まる中でも、持続可能な事業構築を目指す「てくポ」は、新時代の高齢者施策におけるスタンダードになりうるものと考えています。



## 2. 令和3年度の実績

初年度は、利用者数は352人、期間は10月から半年間と、小規模な実証で課題や効果を検証しました。

### データから見た事業の効果

#### 行動 変容

利用者の活動データを、ポイントが付かない他市の「脳にいいアプリ」ユーザーと比べると、平均歩数で5倍、脳トレや食事記録の実施回数で7倍 と大きな差が出ました。ポイントの有無が大きく行動を左右している可能性があります。

#### 経済 効果

歩数の増加による医療費削減効果は、概算で約900万円 となりました。今後さらに規模を拡大して介護・医療コストへのインパクトを多角的に推計し、事業の費用対効果を客観的に示していきます。

#### 意識 変容

実証前後アンケートに回答した275人のデータについて前後比較を行ったところ、多くの方に 主観的健康観(健康であるという自覚)や意欲の向上 が見られました。認知・身体機能に加えて、心の健康にどんな効果を及ぼすかも、今後分析していきます。

### ポイントの使い道

アンケートでは、PayPayに変換した方が約7割、ポイント協力店で使用した方が3割となっていました。

また、ポイント協力店で使った方のうち83%が「普段行かないお店に行った」と回答しており、地域活性化につながる効果も期待されます。なお、協力店は今年度も随時募集中です。

## 3. 令和4年度事業について

### 6月1日より登録・ポイント付与をスタート

昨年度は登録に説明会出席が必要でしたが、今回からアプリ上で登録申し込みができます。

なお、6月20日以降 インストールや登録申し込みに不安がある方を対象にした説明会を実施していきます。

### 6・7月の説明会日程

日付	場所
6月20日(月)	市役所
6月28日(火)	クリエイトホール
7月8日(金)	南大沢保健福祉センター
7月20日(水)	北野市民センター
7月28日(木)	クリエイトホール

### 市場サービス連携に向けたプロジェクト

「てくポ」と市場サービスの連携に向けた実証実験も進めています。様々なサービスとつながるプラットフォームを確立することで、健康増進効果の向上や、ポイント原資の安定的獲得を見込んでいます。

詳細は株式会社ベスプラ(info@bspr.co.jp)にお問い合わせください。